

博士（保健学）学位論文 要旨

「特定行為に係る看護師」による気管カニューレ交換の成果と課題

Outcomes and Issues on Tracheostomy Cannula Replacement
by “Nurses Pertaining to Specified Medical Acts”

2019年

指導教員

宮城 重二 教授

1502101

里光 やよい

SATOMITSU Yayoi

〔背景と目的〕国は超高齢社会を見据え、療養生活の拠点を施設から地域におく方針を打ち出した。その後チーム医療の推進に関する検討会を経て、今後の在宅医療等を支えていく看護師を「特定行為に係る看護師」(Nurses Pertaining to Specified Medical Acts)と命名し、2015年10月より計画的に養成する事になり特定行為研修が開始された。

本研究者は特定行為研修の機関として指定されたA機関に所属し、特定行為の気管カニューレ交換に関する教材の作成を担当し、初版および第2版を作成し、当研修の実施に係わってきた。気管カニューレの交換に係る看護師の活動は2016年10月より開始されたが、個々の実践報告は散見されるものの、特定行為に係る看護師の気管カニューレの実践に特化した成果に関する研究報告はない。

以上のような経緯から、本研究では特定行為に係る看護師の気管カニューレの交換の実践における成果について検討することを目的とする。

本研究の主たる構成は、(1)研修教材の作成およびその経過、(2)特定行為に係る看護師の実践による成果および評価(①当該看護師による成果および評価、②患者家族による成果および評価)である。

〔対象および方法〕対象は研修教材(初版)および研修教材(第2版)で学び修了し看護師のみで気管カニューレ交換を2回以上行った経験を有する看護師にインタビュー調査を行う。インタビュー内容は、気管カニューレ交換の実践状況、患者や家族への影響、他職種との連携、組織への影響等である。さらに、当該看護師から気管カニューレの交換を2回以上受けている患者家族にインタビュー調査を行う。インタビュー内容は、疾病の経過と当該看護師の実践に対する気持ちや意見、これまでと変わったことについて等である。

調査法は、直接面接法で、実践状況については半構造化面接法で聞き

取る。内容は同意を得た上で IC レコーダーに録音する。分析にあつては質的帰納的分析方法でカテゴリ化する。

〔結果〕 研修教材（初版）を用いて修了し、研究に参加した看護師は 3 名、研修教材（初版）および第 2 版を用いて修了し、研究に参加した看護師は 13 名であった。また、当該看護師（訪問看護師）の実践を受ける患者家族 1 名が参加した。以下に成果として抽出されたカテゴリを記述する。

当該看護師のみる患者への成果としては、カニューレ閉塞回数の減少、呼吸器感染の減少へ、気管孔周囲の皮膚トラブル回避へ、会話や気管孔閉鎖に向けての支援加速、経管栄養は定時に等である。安全性の確保においては、呼吸状態・全身状態のトータルな観察と判断、手に伝わる感覚を掴み確実なカニューレ交換、医師との連携による安全な実施が抽出される。医師および他職種との連携では、医師との幅広く細かな連携・協働、言語聴覚士との連携・協働等が抽出される。当該看護師への影響としては、自律した看護実践へ、自己研鑽、医師の方針に沿う、在宅看護のビジョンを持つが抽出される。

患者家族による当該看護師の実践に関するものは、カニューレ交換の恐怖と命を守る重圧、緊急交換の減少等が抽出される。

〔考察〕 カニューレの閉塞の回避という重要な成果が確認された。特に在宅で療養する患者に対しては、呼吸状態を危機状態に陥らせることなく療養生活を継続できることに大きく貢献している。また、療養生活を支える家族に対しても、重圧である緊急交換が減少していることは大きな貢献である。さらに、2 週間毎の定期的な気管カニューレの交換により呼吸器感染の予防も示唆される。その実践を支えるのは当該看護師の安全に配慮した呼吸状態・全身状態のトータルな観察と確実な技術である。また、日常の観察や看護実践は看護職同士の連携によりトータル

な観察や気管孔周囲の皮膚トラブル回避につながっている。これまで以上に医師や言語聴覚士と連携・協働し、適切なカニューレの変更についても自律的に活動し、タイミングよく訓練が進んでいる。当該看護師がリーダーシップを発揮しチーム医療の要となりさまざまな活動を行っていることが示されたと考える。当該看護師が自律した実践を行えるようになるには、研修時から自施設での実践時には医師の指導が不可欠であり、組織全体の当該看護師への理解とバックアップも重要である。しかし、症例の確保や指導医の確保、組織の理解に苦慮している現実もある。

【結論】当該看護師の気管カニューレの交換を実践により【カニューレの閉塞の回避】という生命維持に関わる重要な成果が確認された。また、さまざまな成果が抽出され提供する医療の質が向上していることが示唆された。特定行為に係る看護師の養成は超高齢社会における地域医療の推進に大きく貢献できることが示唆され、本研究が研修事業推進の一助になることを期待する。